

研究主題：児童生徒の自己指導能力を育む生徒指導
 ー解決志向アプローチの考え方を生かした
 ガイダンスとカウンセリングの機能の充実を通してー



「解決志向アプローチ」とは、「児童生徒の問題や原因に着目するのではなく、児童生徒がもつリソース（よさやがんばり等）を生かし、児童生徒が望む未来イメージに向けて具体的な目標をつくり、新たに解決や未来をつくっていく発想」のことです。「解決志向アプローチ」を生かした関わりの一つとして、児童生徒のリソースをコンプリメントする（褒める、認める等）ことが挙げられます。

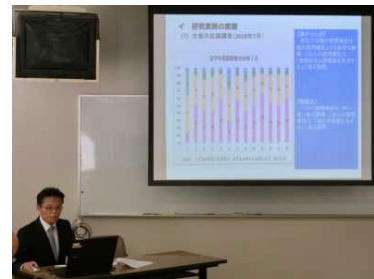
第3回研究協議会が実施されました！



下妻市立高道祖小学校



茨城町立明光中学校



鉾田市立鉾田北中学校



かすみがうら市立千代田中学校



県立太田第二高等学校



11月5日（火）に実施した今回の研究協議会では、研究発表会本番を見据え、プレゼン資料と読み原稿を用いたりハーサルを行いました。各校の発表からは、作成した実施計画を基に、各校の先生方お一人お一人が熱心に実践を進めてきた様子がよく分かりました。特に、

- 下妻市立高道祖小学校：特別支援学級における実践と「クラスアシスタント」による実践
- 茨城町立明光中学校：「授業レシピ」を生かした各教科等の授業実践
- 鉾田市立鉾田北中学校：学校行事や部活動の実践と掲示物の工夫
- かすみがうら市立千代田中学校：個別面談と構成的グループエンカウンター（学級活動）の実践
- 県立太田第二高等学校：授業と学校行事を中心とした実践

が、各校の実践発表の「売り」になっています。「クラスアシスタントとはどんな役割なのか。」「授業レシピとは何なのか」など、ぜひ発表会場（研修センター大研修室）で確かめていただけたらと思います。

各校の実践内容からは、先生方が児童生徒の自己指導能力の育成を目指し、解決志向アプローチの考え方を生かして児童生徒と日々関わっていることが、十分に伝わってきました。各校の実践のすばらしさを、多くの先生方や学生のみなさんに感じていただきたいと願っています。

本研究の成果を、12月26日の「研究発表会」でお伝えしていきます。当日は、本研究の助言者である、目白大学大学院の黒沢幸子教授による講義も予定されています。研究発表会の申込は、現在も受付期間中です。まだまだ間に合います！先生方のご参加を、心よりお待ちしております。